第1回港区区政会議 こども青少年部会 議事録

1 日 時 平成27年6月22日(火) 午後7時00分～午後8時38分

2 場 所 港区役所 6階601会議室

3 出席者 (委員)

瓜生委員、大池委員、加集委員、客野委員、平岡委員、森下委員
矢田委員

(50音順)

(学校関係)

石橋磯路小学校校長

(港区役所)

田端区長、中村協働まちづくり支援課長、谷口窓口サービス課長
花立協働まちづくり支援課長代理、山本窓口サービス課長代理

4 議 題

- (1) 平成26年度の施策・事業の評価について
- (2) その他

5 閉 会

○中村協働まちづくり支援課長

こんばんは。それでは、定刻になりましたので、平成27年度第1回目の港区区政会議こども青少年部会を開催させていただきます。

私は本日の司会をさせていただきます、港区役所協働まちづくり支援課長中村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

区政会議につきましては、大阪市の条例に基づきます会議となっております、委員の定数の2分の1以上の出席がなければ開くことができないこととなっております。本日の委員の状況でございますが、定数12名のところ7名のご出席をいただいております。本会につきましては有効に成立することを報告させていただきます。

また、会議は公開とさせていただきます、後日、会議録を公開することとしておりますので、そのため、会議を録音させていただきます。発言内容の確認を後日お願いいたしますと存じます。

また、本会議は小中学校の校長会の幹事校長先生がオブザーバーとしてご参加いただいております。小学校については昨年に引き続き磯路小学校の石橋校長先生です。中学校につきましては、新たに港南中学校の畠野校長先生が幹事校長になられましたけれども、本日は所用のため欠席されておりますのでご紹介だけしておきます。よろしくお願いいたします。

それでは、まず港区長から挨拶をお願いします。田端区長よろしくお願いいたします。

○田端区長 皆さん、こんばんは。田端です。

6月も下旬になって、公私とも本当にお忙しい中、港区の区政会議、こども青少年部会ということでご出席いただきまして本当にありがとうございます。

また、石橋先生、今年度も引き続きよろしくお願いいたします。

司会からもありましたけれど、この区政会議、条例に基づく会議となっております。先月住民投票という形で大阪市のあり方や、区の位置づけについて、市民上げての大きな議論になりました。

大阪市は現行制度において、区の権限、位置づけを年々強めてまいりまして、その民主的な根拠といたしまして、この区政会議が区民の声を一番正式に区政に反映する仕組みということになってございます。

特にこのこども青少年部会については港区で区政会議を発足させて以降、学校選択制など、大きな懸案事項等ございました中で、本当に積極的にご意見をいただき、大変心強くありがたく思っております。

本日は昨年度の教育分野における施策・事業の評価についてご意見を頂戴いたしたいと思っております。また、特に教育の分野については、市長の方針もございまして、私は昨年度、教育委員会事務局港区担当理事と位置づけていただいていたのですが、さらに今年度からは次長ということで、より一層教育の分野にかかわらせていただくことになってございます。そういう状況もご説明した上で、現在の事業・施策の進捗状況を申し上げて、忌憚のないご意見をいただければというふうに思っておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

本当に本日はありがとうございます。

○中村協働まちづくり支援課長 それでは、今も配布されましたけども、資料の確認をさせていただきたいと思っております。座ったままで申しわけございません。

本日配布させていただきました次第が1、それと、こども青少年部会委員名簿が1、それと港区教育担当、今、配布しました、教育担当名簿が次でございます。

それから事前に送付させていただきました資料につきまして、簡単に確認かたがた説明させていただきます。

資料Aとしまして、ちょっと折り込んでいますけどもA3判の2枚物、両面刷りの2枚物です。それと資料Bとして分権型教育行政の転換についてということで、A4判が1枚、裏表となっております。資料Cとしまして、市立小学校学校配置の適正化の推進のための指針ガイドということで、これは2枚セットになっていまして、両面刷りの今の概要と、港区の小学校の現状、平成26年5月1日現在の内容でございます。それと資料Dが港区の取り組みというところで、港区スクールソーシャルワーカー巡回・派遣事業についてというのが資料Dの内容であります。これはA4判で1枚です。それから、資料Eが中1ギャップ問題解決に向けたパイロット事業ということで、A4判の片面刷り1枚になっていきます。それから、資料Fがエルカフェということで、横印刷ですね、で、1枚物の内容です。それから、次が、資料Gが港区絵本による読書活動促進スタートアップ事業を紹介し、ます区のホームページの内容で、A4判の2枚物で、写真等の内容が計3枚、3ページになります。それから、次もホームページですけども、A4判の1枚物で、こどもサイエンスカフェ事業についてということで、両面刷りになっています。それとA3判の3枚物の両面刷りで、英語大好き交流ドキドキ体験、これが資料のIということです。資料のJがこども110番の家ということで、A4判の両面刷り、裏面が地図の田中小学校がついていきます。資料KがA4判1枚の教科書展示会を開催しますというものと、最後の資料Lが

社会を明るくする運動の講演会、大八木淳史さんの講演の両面刷りのものになります。

不足している内容がございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

はい、ありがとうございます。それでは森下議長に進行をお願いします。森下議長、どうぞよろしくお願いいたします。

○森下議長 皆さん、こんばんは。お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。

事前にいただきました、先ほど説明いただきました資料を見てみますと、表紙の部分に、第1回港区区政会議こども青少年部会ということが記載してあります。

ただ、僕はイメージとしましては、そろそろ任期終わりが近づいてきているのかなあというイメージがしているのですけれども、これまでさまざまな事業施策につきまして皆さんからご意見を頂戴しました。その中で、お住まいの地域等でその取り組みについて利用された方とか、何か参加をされた方から感想とかご意見などを耳にされている委員の方もおられるかもしれません。ぜひ、そのようなお話も、本日の平成26年度の施策事業についての評価ということ以外にもお聞かせいただくと非常にありがたいと思っています。

長時間ですけれども、本日も忌憚のないご意見を頂戴いただきますよう、よろしくお願いいたします。以上です。

○中村協働まちづくり支援課長 どうもありがとうございました。

それでは、議事のほう、よろしくお願いいたします。

○森下議長 それでは、次第の2番の(1)平成26年度の施策・事業の評価について、こちらの説明をお願いいたします。

○花立協働まちづくり支援課長代理 すみません、26年度の施策・事業の評価の前に、この間教育の分野で大きな進捗がございまして、そちらについて、分権型教育行政の転換についてということで資料Bでつけさせていただいた分につきまして、区長のほうからご説明を差し上げたいと思います。

○田端区長 すみません、恐縮です。それでは、A3に折り畳んでいる資料の次の、右肩資料Bをご参照ください。

ここにごございますように、先ほどもご挨拶でも少し触れましたけれど、市政運営におきましては、区長の権限を強めて区役所が総合的にまちづくりを担うという取り組みを行っています。一般行政は市議会のもとにあるのですけれども、教育の分野は一般行政とは別に、教育委員会という議決機関のもとにあって、そこに教育長という職があって、全市一体的

に教育行政を推進しているということで、一般行政とは別の仕組みになっています。

一方で、市政全体をニア・イズ・ベター、市民、区民の近いところで運営していくという、現在、市長のもとでそういう強い考えに立って市政全般を運営しておりますので、教育の分野につきましても、区長を今までは教育委員会事務局港区担当理事と位置づけて、学校選択制とかそういう教育の分野にかかわらせてきていただきました。

ここに書いているのは、それをさらに強めて、分権型教育行政を強化していくということです。

1、目指すべき目標像とございますが、上のほうの四角の2つ目の白丸をご参照いただきたいと思います。

分権型教育行政、これは校長先生の裁量の拡大と、今、申し上げた区長を、港区担当教育次長、今まで担当理事でしたけれども、次長と位置づけて、そういう2つの、校長先生と区長の権限強化のもとで進めていくこととしています。

そして、1ぽつにありますように、全市的な教育にかかわる基本的な方針は、これは市長と教育委員会が協議して決定します。

その全市的な方針と目標を踏まえた各学校の目標設定、それと、それを達成する方法、手法は裁量権を強化された校長先生が担います。

学校と教育コミュニティと書いていますけど、地域の中に学校があるかと思えますから、学校と地域コミュニティとの関係がうまくいっているかどうかのモニタリング、また、区のほうにも区民の皆さんとのネットワークがございますから、そういうものを教育の分野でも校長先生に活用していただくような連携とか、そういうことについては、区担当教育次長、私が全市的な方針を踏まえながら行わせていただくということです。

そして、次の白丸は、区担当教育次長への分権は大阪市として一元的に実施していくことが必要なことを除き、それ以外の区域内における事柄について教育長の権限と責任を分担させるということです。大阪市全体として進めること以外は基本的には区の状況を踏まえて区担当教育次長が行うということです。

次は、区担当教育次長は2つ、ぽつがございますけれど、区において保護者、区民の皆様、校長先生等の多様な意見、ニーズを酌み取っていく、そういう仕組みをつくりなさいということと、次のぽつは、学校だけでは解決できないような課題について、区長とか、区長の立場で持っているいろんな権限とか、区役所と区民の皆様のネットワークとか、そういうものを活用して、学校現場に反映できるように連携して総合的に進めていくという

ことです。

それと、あとはそのための体制ですけれど、そういうことをするために教育委員会事務局の中に区役所をサポートする組織をつくります。

それと、名簿もお渡ししていますけれど、担当次長という位置づけですけれど、区長1人では何もできませんので、さっき配布した名簿ですけれど、区の職員のそれぞれの部長級、課長級、係長、係員の必要な職員について、区の次長をサポートする、そういう位置づけを与えています。

その具体的な仕組みづくりですけれど、この下半分に書いて図式化しています。先ほど全市的な方針は市長と教育委員会が策定すると申しあげましたけど、そのための会議が一番上にある総合教育会議という、市長と教育委員会の会議です。ここで全市的な方針を決定します。決定された方針につきましては、教育委員会のほうから教育委員会事務局に指示が来ます。教育委員会事務局のトップは教育長でございますから、教育長が全市的な教育方針に基づいて事務局を統括する立場で推進していくということになります。

一方で、全市的な推進が必要ではない、各区において、個別に取り組むことができるようなことは区担当教育次長、区長のところに権限がまわりまして、今、申しあげた教育委員会事務局を兼務させている区役所の職員に私が指示をしながら、港区の教育に必要な施策・事業を進めていくということです。

そのための仕組みですけれど、一番下に学校園とございまして、学校園から区役所のほうに2つの双方向の矢印があります。これは区教育行政連絡会ということで、昨年度末に設置いたしまして、小学校、中学校ごとに2つの連絡会をつくらせていただいています。

1 1 小学校の校長先生と区役所、それと 5 中学校の校長先生と区役所の連絡会議をそれぞれつくらせていただいています。ここで各学校の状況とか、区の教育行政に対する先生方のご意見とか、情報、課題の共有化を図るという趣旨です。

それから、その上、左側に、保護者、地域住民等という箱がございまして、区役所のほうに、右方向の矢印が出ています。参画のための会議という、変な表現をしているのですが、これにつきましては、区民、あるいは保護者の皆様が港区の教育課題に関して、教育担当次長という位置づけの区長のほうにおっしゃっていただいて、先ほどもありましたけれど、区長が区民、保護者の皆さんの声を聞きながら、学校園と連携して、区の教育行政を進めていくための仕組みとして、この参画のための会議を位置づけます。

この会議につきましては、今から 2 4 区でそれぞれの区の実情に応じて新規でつくって

いくということになっています。

これにつきましては港区といたしましては、全く新しくつくってもいいんですけど、私どもといたしましては、この区政会議のこども青少年部会をこの参画のための会議という会議に位置づけさせていただいて、新たに新規でつくるのではなくて、この区政会議の部会にこの機能を持っていただきたいと思っています。

左斜め下に学校協議会とありますけど、これは既に一昨年から各学校で保護者、地域住民の代表の方に入らせていただいて、学校経営に関してのご意見をいただくということで、全11小学校、5中学校で設置されています。条例上、区長はその円滑な運営をサポートするという位置づけになっており、各学校協議会の運営をサポートさせていただきます。

ですから、区担当教育次長という大きな位置づけと権限をいただきますけれど、区長が自分の感性で何か自由にやっていくということでは決してございませんで、まずは、教育行政連絡会で各学校ときっちりと連携して、認識を合わせて取り組んでいく、また、保護者、区民の皆様の意見をこの参画のための会議でしっかりと聞き、区として学校現場に伝えながら対応していく、そういう形で進めさせていただくということになります。

裏面は今、申し上げたことを少し、それぞれの項目ごとに詳しく書いてございますので、またご参照いただければと思います。

ちょっと1つ補足を申し上げますと、裏面の2の制度という(1)区担当教育次長の設置という、3つ目の白丸ですが、教育長は全市における基本的な方針と目標に基づき、区担当教育次長が当年度に、今年でいうと、27年度に重点的に取り扱うべき事項等を示すということになっており、毎年度、毎年度、教育長から重点的な項目が示されます。

今年度につきましては、ここに書いている3つの項目で、1つ目は、学校の配置や規模における教育環境の適正化ということで、これは後でご説明しますが、いわゆる過少校の解消ということになります。

2つ目は、保護者、区民等の教育に関するニーズや学校の状況を把握するための仕組みの構築です。これは先ほど申し上げた参画のための会議ということになっていまして、港区としては、区政会議のこども青少年部会をそのための仕組みと位置づけさせていただきたいと思っています。そのためには、今の委員の皆様は、この9月末の任期ですので、10月以降、この新たな会議の委員はやっぱり保護者の方とか、住民が中心になっていただくということになりますので、できる限り公募でお願いしたいと思っております。先般、もう矢田委員から、やはり子育てにかかわるような方がこの部会のメンバーになるべきではな

いかというご意見もいただいたと思うのですが、そういう方向に、ちょうど合致もしていって思っていますので、ぜひ、この区政会議のこども青少年部会をその位置づけにしていきたいと思っています。

3つ目は、学校の状況に応じたサポートや提案、意見具申を行うということで、これは先ほど申し上げた、教育行政連絡会議とかあて、より一層各学校園と連携して取り組みたいと思っています。

以上です。

○花立協働まちづくり支援課長代理 すみません、26年度の施策・事業の評価についてに移る前に、もう1つだけ追加で私のほうから説明を申し上げます。

資料Cをごらんください。先ほど区長から説明がありました今年度の重点的に取り扱う事項の1つであります、学校配置の適正化についてですが、この資料Cは平成26年3月に出された指針です。

指針の内容を簡単に申し上げます。対象校、適正配置の対象となる学校はこれまでと変わらず11学級以下の小学校です。これは2学級ないとクラスがえができないということになりますので、1学年、どこかの学年で1学級の学校があれば、11学級ということになります、ということです。

適正化の手法についてはこれまでと変わらず、統合、1つの学校を廃校にして、もう1つの学校に統合するという統合の手法により進めることが基本となっておりますが、場合によって、校区の変更についても検討することとなっております。

1枚めくっていただきますと、港区の小学校の現状を一覧にさせていただいております。

港区では太字の6校が適正配置の対象校となっております。

とりわけ現時点での推計を右端の欄に書かせていただいておりますとおり、港晴、築港、八幡屋、池島、につきましては、全学年単学級になるなど、生徒数がより少なくなる、これよりもっと少なくなる見込みが出ておまして、今後、具体的に対応策を検討していく必要があると考えております。

以上です。

○森下議長 ありがとうございます。ここで、質疑応答ということですが、この2つのお話について何かご質問等がございますでしょうか。

○大池委員 公募委員の大池です。

港区の小学校の現状のこの今年度がこの状況ですか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 すみません、27年5月1日の数字が8月ごろには出ますが、まだ、いただけていません。そのため、ちょっと古い数字になってしまっていますが、現在、正確な数字としてはこの数字になります。

○森下議長 ほか何かございますか。

○矢田委員 よろしいですか。この資料Bの分権型教育行政への転換についてですが、これは私も20年前にPTAの会議をやっていたものですから、その当時からこれを我々は要望しておったわけですね。やっぱり校長先生がちょっと権限を持ってもらって、ということで、実際にこれが現実化して喜んでいます。

その中で少々耳にしますけれども、先生方が資料提出に時間が費やされ相当時間がかかると聞いています。これも解消されるのですか。要は、子どもと接する時間についてです。

○花立協働まちづくり支援課長代理 一つがIT化の推進によってその分は大分解決されるということで、先生方にパソコンを1台ずつ配付して、ネットワークでシステムを組みまして、事務軽減を図っています。

○矢田委員 先生方がよく言われる、子どもと接する時間をもっと多く持ちたいという流れにはなるということですか。

○田端区長 そういう認識はあります。だから、IT化とか、順次、副校長を導入していくとか、学校現場の校長先生、教頭先生の負担感が非常に強く、その軽減を図っていく必要があることは市長のほうでも認識がございまして、また、その辺は恐らく現場の声も踏まえて、教育委員会のほうでもかなり意識を持って検討されていると思っています。

○花立協働まちづくり支援課長代理 現在、教員の声を直接聞くようなシステムについても検討されていまして、目安箱みたいなものですね、そういったことも進められて、そういう声が反映されるように、取り組みを進めているところです。

○矢田委員 それといきいき教室というのはまた別になるのですか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 はい。

○矢田委員 それはまた区長のその。

○田端区長 いきいきは、あれは公募して、業者選定してということで、局の事業ということになります。

○矢田委員 それは例えば区長の権限であらう、こうしようということとはまた別のものになるわけですか。

○田端区長 制度設計は局で考えて、今、大体局がしようとすることは区長会にも諮り

ますので、我々も意見があれば、区長会にも子ども教育部会をつくっていますので、その部会でも報告を受けて必要な意見は言う形になっています。

今、各区単位で、あるいは区の希望によっては、小学校単位でいきいきの業者公募ができますので、その仕様書などを工夫していくということもできます。港区では、今年度から南市岡の地活協が、南市岡のいきいき活動の受託業者になっています。

もし、そういうことができるならば、本当に地域がまさに学校を舞台として地域の子どもたちとすごく近い距離になっていけるし、地域のニーズを反映するというよりも、地域そのものがいきいき運営されているので、区長としてはそういう方向は非常に好ましいのかなと思っています。

ただ、やっぱり契約ですので、透明性、公平性というのがありますし、ちゃんと公募の入札というプロセスをとっています。全市的にも地域がやっているのは余りないですよ。

○花立協働まちづくり支援課長代理 そうです。公募単位を区で選べます。港区については小学校単位にさせていただいて、区によっては、全区一括でとなっています。

○田端区長 募集の仕方とかということには区長は関わるすることができますし、実際関わっています。

○矢田委員 今までがどうも、その学校といきいきが、保護者から見たり、我々地域の者から見たら、同じように見えているけれど、実は中身はいわゆる縦割りでね、ここの領域までというような線引きがはっきりできていたというのを、これは解消できないかなと思います。

○田端区長 はっきり言って、校長先生の責任の及ぶ範囲にもかかわってきますから、学校教育の分野と、それ以外の分野ということで、あえてそういう線引きをしていたと思います。

○花立協働まちづくり支援課長代理 事業者を公募するに当たって、局の事業ですので、区から仕様についてはいろいろ意見は言えないのですが、仕様とは別に、区が要望するものというのは出させていただいてまして、そこには学校との連携した教育内容、とりわけ放課後のステップアップ事業とか、宿題とか、そういった連携をしてくださいということは申し上げています。

○矢田委員 ああ、そうですか。

それとその管理作業員さんの問題も、いわゆるやっぱり校長さんがそこまで立ち入れられないというようなところがあったように思うのですが、同じ考えで、そこらもぜひ解

消して、1つの学校の中の職員ということで、何かやってほしいなというのがあります。

○田端区長 校長先生、いかがでしょう。

○石橋磯路小学校長 うちの学校の場合は、それまで2人おられましたけれども、人員がいろいろなことで、子どもの数も少なくなったときは1人になりましたけれども、本当に学校のためによくやっていただいて、例えば、土曜授業のときに門のところへ不審者対策でちゃんと立ってくださるとか、それ以外のことでも言ったらすぐにしてくださりました。特に、管理作業員さんが何か問題とか、そういうことは全くないので、その人によるのではないかと思うんです。近年、人事の管理のほうもかなりきちっとしておりますので、そういう方はほとんどおられないというか、そういう問題は余りないのではないかと考えております。

○矢田委員 過去の話ですね。

○森下議長 ほかに何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

保護者、地域住民等の参画のための会議ということですが、これ、資料をいただいたときには、区政会議とか、その位置づけの違いはということを質問しようと思っていたんですけど、先ほどご説明がありまして、では、先ほどおっしゃられましたけれども、現役の方がたくさんやっぱり入ってこれないといけないと思うんですけども、その場合の募集の仕方というのはどのような形になるのでしょうか。

○田端区長 そうですね、すみません、ちょっともう一度さっき見ていただいた資料Bの、後でご参照くださいと申し上げた裏面のほうをもう一回見ていただけないでしょうか。裏面の下に、(2)区における仕組みの運営の真ん中の2つ目の白丸、保護者・地域住民等の参画のための会議ということで、ここで文章でご説明しています。

で、1つ目のぼつに、この会議は区担当教育次長、区長がそのマネジメントにより、所管する施策について、区における計画、方針の策定や実績、成果の評価についてご意見を聞くために開催するとあります。

で、次のぼつで、委員は区担当教育次長、区長が、保護者、地域住民、学識経験のある方のうちから選定するとしています。区長は意見を聞く側であるため、委員とはしないとあります。

この会議は区政会議と同様に、行政上の会合とする、こういう守備範囲になっています。

具体的には、やはり基本は公募、広く公募をしていきたいと思っていまして、実は7月1日発行の区政だよりで一般の区政会議の新しい任期の方と一緒に公募をしたいと思っ

います。

教育の分野においての、（仮称）港区教育会議となりますので、保護者の方とか、学校協議会の関係者の方を優先的に募集させていただきますという、そういうコメントをつけて委員を公募させていただこうかなと思っています。

○森下議長 私のほうも、ぜひ学校協議会の方々に入っていただきたいなと思っておりました。

○大池委員 学校協議会のメンバーはどういう方々がなられるのでしょうか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 そうですね、地域の役員の方もいらっしゃいますし、PTAの方もいらっしゃいますし、あと関係校の校長先生もいらっしゃいます。

港区では、そういった保護者の方を複数名以上にしてくださいとか、女性委員をできたら1名以上にしてくださいとか、地活協の役員さんを1名以上入れてくださいというようなお願いをしています。

○大池委員 それは各11団体できますよね。

○田端区長 11小学校と5中学校でそれぞれ、それと幼稚園。

○花立協働まちづくり支援課長代理 私立幼稚園、三先幼稚園と。

○花立協働まちづくり支援課長代理 大体10名以下ぐらい、8名ぐらいが多いですね。8名から10名ぐらいの間です。

○大池委員 まあ、でも、重複、中学校やらに重複される方もいらっしゃるでしょうし。

○花立協働まちづくり支援課長代理 若干いらっしゃいます。

○大池委員 人数的にね。

○花立協働まちづくり支援課長代理 はい。

○大池委員 出席するのも大変です。今までこっちへ出ていてこれふえたら大変だなと思って。区役所のほうも大変だなと思います。

○田端区長 まあまあ、区役所もそうですね。

○大池委員 以前に、現在、楽育という名前で、いろんな子どもたち向けの広報をされているのですが、楽育というのを決めたときに、区役所のその教育行政ですかね。そちらのほうでメンバーを一応集められて、そのときに赤ちゃん連れのお母さんとかが参加されていたんですね。ですから、もちろん会議はいつも午前中になるのです。現役のお母さん方で小さなお子さんのいる園のほうのかかわり方、保育所、幼稚園の方、小学校にしてもそうですけども、女性に参加してもらおうと思うとやっぱり午前中にするほうが参

加が可能ではないかなと思います。そのときはもう女性ばかりで、本当に赤ちゃん連れで、横におもちゃのマットを敷いて、そこにおもちゃを用意しての会議をしていたものですから、その場で最後に決まったのが楽育という名前で、親子連れのいろんな要望に対して、現場のお母さん方の意見を聞いて実施されていたというのがあるので、そういうこともちょっと考慮いただけたらどうかと思います。

○田端区長 女性委員の比率を高めるというのが大阪市の方針としてもありまして、特にこの区政会議のような審議会等の位置づけの会議については4割以上というのが目標です。ですから、次期の区政会議委員におかれても、我々そういう目標でお願いしたいと思っているのですが、そういうことを考えたときに、大池委員がおっしゃるように、女性にかかわらないですけど、開催時間も含めまして参加いただきやすい会議の環境設定をしていくというのは非常に大事と思っています。だから、考えられることという、やっぱり開催の時間とか、場合によっては保育ボランティアの方ですよね、ちょっと協力いただくとか、いろんな対策を考えたいと思います。

○大池委員 よろしくをお願いします。

○矢田委員 今PTAの実行委員会って昼か夜かというところどちらですか。

○石橋磯路小学校長 夜ですね。昼間はみんな来られないです。

○矢田委員 ということは昼間は働いてはるといえることですか。

○石橋磯路小学校長 そういう方が多いと思います。

○田端区長 公募のときにも、通常会議は平日夜に開催する予定ですよというのは、一応入れています。ただ、メンバーが固まってからでも、もう一度お聞きして、やはり参加していただきやすい時間帯とか方法は考えたいと思います。

○大池委員 家で家族がいらっしやって、皆さん、夜遅くまでお待ちになるのも大変だと思うのですが、できるだけ残業はないようにね。

○田端区長 ありがとうございます。ただ、やっぱり働いている方が多くいらっしゃいます。

○森下議長 ほかに何かございませんでしょうか。

ないようでしたら、ちょっと前後しましたけども、平成26年度の施策・事業の評価について、この資料AからBということで説明、よろしくお願いします。

○花立協働まちづくり支援課長代理 それでは、資料A、A3の紙をごらんください。こちらは平成26年度港区運営方針自己評価シートです。

港区の運営方針には、重点的に取り組む主な経営課題というものが6つあるのですが、そのうちの1つが、子育て世代が魅力を感じるまちづくりとなっております、本部会が関係するのは、その中でも、ここでは真ん中の箱の上に書いている戦略4-3です。子どもの学ぶ力、生きる力の育成についてです。

先に少し下のほうの箱から説明させていただきます。

一番下の箱の(2)戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況です。

アウトカム、これは目指す成果ですが、アウトカムは子どもは家庭学習が習慣になっていると答えた保護者の割合で、平成24年度の64%を、平成27年度には69%にすることをしています。

アウトカムの達成状況、右側をごらんください。平成26年度は53.0%で、昨年度の、前年度数値がそのまた右横に書いていますが、44.5%と比べ、8.5ポイント改善しておりますが、平成27年度の目標が69%以上ですので、それと比較すると、達成状況が順調とは言えませんので、評価結果、一番右端ですね。B、順調でないとしています。

この指標につきましては、区政モニターの調査対象者のうち、該当者となる子育て中の人の数が少ないことが課題でございました。前年度の第1回目のこども青少年部会でも、調査対象該当数が少ない区民モニターよりも、学校での保護者アンケートのほうが正確なデータをとることができるのではないかというご意見を頂戴しましたので、今回、各学校に類似アンケートの結果の数値の提供の協力を求めました。その数値を参考として掲載しています。

そのようなアンケートを実施されたのは10校あったのですが、そのうち5校が、平成27年度に69%を目指す場合の平成26年度における目標数値は67.3%になりますが、その67.3%を達成したのが5校あるという結果になりました。半分の学校はその目標を達成しているということでございます。

次に戦略についてですが、一番下の欄をごらんください。

そこに記載しているような学校園との連携の強化等、一番下はここと関係ない戦略になりますので、上から3つですね。3つの戦略でアウトカムの達成を目指してきました。

戦略の評価結果はa、順調としています。

すみません、このbとかaの説明は裏面の一番上になってしまっています、申しわけありません。

ここに※2と※3の説明、アウトカムの達成状況、先ほどbと説明したのが、順調でないというものの説明がこちらにあります。そして、戦略の進捗状況についての評価結果が順調である、a、aが順調であるという説明も、ちょっと次のページになってしまいますが、そこに書かれています。すみませんでした。

次に、真ん中の箱の説明をさせていただきます。

子どもの学ぶ力、生きる力の育成の戦略のアウトカムに対する有効性評価です。

先ほどのご説明のとおりアウトカムの達成状況はb、順調でないでございましたが、今とっています戦略、アウトカムを達成するための戦略は中長期的には有効であると考えております。

ただ、短期的成果を出すためには、より直接的に家庭学習の習慣化を図る事業を通した働きかけが必要なことから、引き続き直接的な事業を学校園等と連携して、具体的取り組みとして実施することとしています。

評価結果としては、ア、有効であり継続して推進としています。こちらはその箱のすぐ下にアの説明ががございます。有効であり継続して推進です。

短期的にはこのような達成状況であります。中長期的には達成できるものと思っております。今後、直接的に働きかけるような事業をふやすことによって達成を目指していくということで、有効であり、継続して推進とさせていただきます。

一番上の箱をごらんください。左側に、経営課題の評価結果の総括が書かれています。

こども青少年部会に係る内容は、内容の3番目の丸ぼつです。子どもたちがみずから学び、考え、表現し、課題を解決できる力を育むとともに、いじめや不登校などの問題への対応、教師が学習指導に本来の力を注げる環境づくりを進める必要がある、でございます。

右側の箱、戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括については、こちら、3行目の後半からになります。また、子どもがみずから学び考える力を育むために、絵本による読書活動の促進や、子どもサイエンスカフェ事業の実施により、子どもの生きる力を高める取り組みを行うとともに、学校にスクールソーシャルワーカーを配置することで教師が学習指導に本来の力を注げる環境づくりを行ったが、アウトカムを順調に進めるには時間を要することから、アウトカムの達成のために短期的に成果を出すことができる戦略の検討が必要であるという総括をしております。

次に、裏面をごらんください。

こちらからが具体的取り組みの目標達成状況と戦略に対する有効性の説明となります。

ここで説明します個々の事業の詳細については、資料D以下に詳細版をつけさせていただいておりまして、ちょっと両方を見ていただくような形になって申しわけないんですが、こちらの運営方針の自己評価シートとともに、資料D以下をごらんいただくということになりますので、よろしくお願いいたします。

○大池委員 時間がありませんので。

○花立協働まちづくり支援課長代理 すみません、それでは、順番を変えまして、大池委員が関係して活動して下さっている絵本による読書活動推進事業をまず説明したいと思います。

資料Gとなります。

このシートでは、次の、今ごらんいただいているものではなくて、もう1つの紙ですね、4-3-5になります。絵本による読書活動推進事業、資料としては資料Gです。こちらのご説明を、大池委員が途中で退席されるのでこちらから先にご説明させていただきます。

絵本による読書活動促進スタートアップ事業の港区のホームページが資料Gです。

小学校を中心に取り組みが広がっています。昨年度は図書館主任の会で、学生の教職員を対象に絵本広場で絵本を配架する面展台というのがあるのですが、そちらをつくる講習会も実施しました。

区で面展台をつくるのに必要なダンボールと木の栈ですね、1校当たり20セット購入しておりますので、各学校で、この講習会を習われた方がつくりたいということになれば、そのセットを提供させていただく予定としております。

また、先日、波除で大池委員が絵本広場を開催されましたので、そのご報告をしていただけたらと思います。

○大池委員 すみません、私ごとですぐに出させていただきますように思っております。

6月の12日金曜日、波除憩いの家で絵本広場を開催いたしました。

一応、主催が子育てサロン紙ふうせんということになって、看板がですね、紙ふうせんの看板でありましたために、本来は世代間交流で高齢者の方、大人と子どもと赤ちゃんたちとの交流の場にしかたつたんですけども、それが十分にできなかったのが残念だったんですが、子育てサロンという観点では、いつも平常10組ぐらいなのが17組、新しい方も、全く新しい方も参加されまして、本当に大盛況だったというふうに皆さんからも喜んでいただきました。

その中でアンケートをとりましたところ、皆さん、子どもたちがお昼前になると、お昼

ご飯とか眠たいとかで、もうばたばたと帰られたので、回収が22名の中で13名で、59%しか回収できませんでした。その中でも77%楽しかった、どちらかといえば楽しかったという方々を入れると、93%の方々が楽しかったということでした。

そして、おもしろかった絵本、心に残った絵本がありますかと回答もいろいろいただきましたけれども、今回、また参加したいと思うかというのは70%の方、どちらかというに参加したいという方を入れますと、100%がまた参加したいということでした。

それで、感想の中で、小さい子どもに読んであげると喜んでくれてよかったとか、前でファシリテーターさんがいろいろ話す、絵本を読んだり、そして、読み聞かせの方法を伝えたりとかいろいろしていただいて、それがすごくよかったとか、たくさんのよい感想をいただきました。

年代を超えた絵本を通しての交流の場をという観点では十分にはいきませんでしたけれども、今後、広報活動もあちこち訪問してお願いも、お誘いもしたんですけれども、また、方法をいろいろ考えて、世代間交流ということで、開くことができたらいいなと思います。

そして、絵本は総勢250冊、そして面展台19台、20台には至らなかったんですけど、区民センターの在庫が19台でしたので、19台、その運びをですね。先般も困っているということで、矢田さんから本当にご協力いただきまして、前日の搬入と当日の搬出と、本当に重たいのを、びっくりしたんですけれども、とても、もう女ではできないことをお手伝いいただきましてありがとうございます。もうみんなからもよろしくお伝えくださいということでした。

本当に子どもたちも、そして参加された赤ちゃん連れのお母さん方もいろんな本を手にとることができてよかったと、本当は自分の息子が小さいときに高齢の方なんかは、お手伝いの方でしたけれども、小さいときにこういう場があれば本当にうれしいのにねということも意見もありました。

絵本ってやっぱり大人、何か縁遠い感じですけども、思い出もありますし、それを通して、年齢を超えたいろいろ話題になる、共通話題もできますし、そして、コミュニケーションの場にすごくよかったなというふうに参加の方々もおっしゃっておいりましたので、ぜひ区のほうもこういう事業を進めていただきたいなと思いました。

すみません、取り急ぎでばたばたと報告いたします。ありがとうございます。

○花立協働まちづくり支援課長代理 ちょっと説明が漏れてしまいました。業績目標は絵本広場については、地域が主体的に実施した絵本広場の回数3回で、目標達成状況も3

回でございますので、評価結果は①の（i）、これは裏面を見ていただくと説明がされておりますが、取り組みは予定どおり進捗で、その右横に丸とかペケとかあるのですが、丸でございますので有効、具体的取り組みの戦略に対する有効性は有効ということとなっております。

戻りまして、4-3-1、もう1枚、先ほど見ていただいたこの資料を見ていただけますでしょうか、4-3-1に戻ります。こちらから順次説明させていただきます。

特色ある学校づくりと教育環境の改善に向けた取り組み。こちらについては、業績目標が学校園との連携強化に係る新規取り組みの実施件数が2件で、目標達成状況の取り組み実施は8件ございましたので、評価結果は1-1で、戦略に対する有効性は丸ということ、先ほどと同じで、取り組みは予定どおり進捗、有効ということ、

ちなみに、これから説明します全事業が評価結果は有効で、取り組みは予定どおり進捗で、戦略に対する有効性は有効ということになっておりますので、その説明については、以下は省かせていただきます。

続きまして、4-3-2に移ります。

学校園における課題を抱える児童への支援です。

こちらは資料、先ほど見ていただいた資料Dに詳細がありますが、それはまた省かせていただいて、業績目標について説明しますと、スクールソーシャルワーカーにより解決・好転した相談件数の数20件が目標でしたが、目標達成状況は、全62件の相談のうち、解決・好転した相談件数が54件ありました。

続きまして、発達障害サポート事業、4-3-3-です。

業績目標は発達障害サポーターを配置した学校を対象とした本事業の有効性についてのアンケートで有効と回答する学校の割合を80%以上としています。

目標達成状況は有効と回答した学校の割合が100%でございました。

続きまして、4-3-4、中1ギャップ問題の解決に向けたパイロット事業です。

業績目標としましては、家庭学習の手引きの作成・活用、不登校児童等に対する登校支援策について、報告会を兼ねた教育フォーラムのアンケートにおいて、中1ギャップの説明を行った後の関心を尋ね、関心が高まったと回答した人の割合60%としています。

実際、アンケートをとりましたところ、関心が高まったと回答した人の割合が91%でした。

続きまして、4-3-5、絵本による、これはすみません、飛ばしまして、4-3-6、

こどもサイエンスカフェ事業です。

業績目標としましては、サイエンスカフェに参加した子どものうち、よかった、とてもよかったと答えた子どもの割合70%以上が回答しておりまして、目標達成状況はよかった、とてもよかったと答えた子どもの割合が93%でございました。取り組み実績は資料Hにつけておりますとおり、裏面にチラシをつけておりますような内容と、市民祭りでの自然観察会2回を加えて計6回を実施しております。

続きまして4-3-7、英語大好き♪わくわく交流・ドキドキ体験授業です。

こちらについては小学校3、4年生のコースと中学生のコースがありまして、小学校3、4年生のコースについては外国の人に話しかけられたらどうしますか、に対して英語で受け答えすると回答した者70%を目標としております。

中学生についてはあなたは将来どのくらいの英語力を身につけたいですかという質問に対して、英語で仕事ができるくらいの英語力と回答した者50%としています。

目標達成状況としましては、小学生の受講生81%が英語で外国人に話しかけられたら英語で答えると回答してくれました。中学生の受講生については46%の方が将来英語で仕事ができるくらいの英語力を身につけたいと答えてくれました。ただアンケート未回答者が三名いらっしゃいましたのでその方を除くと60%で、目標を達成しております。

参加者数が下に書いております、取り組み実績として、小学生が16名、1クラス16名の2クラスありまして32名、中学生は1クラス15名だったんですが、2人が申し込んだ後にキャンセルされて13名となっております。

ちなみに今年度も英語交流授業については実施しておりまして、小学生については31名の申し込みがありまして、定員が20名でしたので定員を上回る申し込みがあって、昨日から開始しているところです。また今年度は、昨年度受講された小学生、中学生の継続した学習の場として、回数はちょっと減るのですが、月2回程度気楽に英語カフェという形で、英語会話ができる場を今年度つくって応募したところ、昨年度の小学生の受講生32名中29名が募集してきてくださって、去年受けた方は本当に継続して学習したいということをご希望されているということでございます。

裏面に移ります。1つ飛ばしまして、4-3-9、青少年健全育成の推進です。

こちらの業績目標は各校区総会におけるアンケートで、総会参加者が青少年育成推進活動は有意義であると回答した数、割合70%です。

実は各総会でのアンケートは取れなかったんですが、青少年活動推進会議の意見交換会

を実施させていただきまして、そこでアンケートをとらせていただいたところ、90%以上の方が有意義であるとの回答をいただいております。

26年度の取り組みについては以上でございます。

○森下議長 ありがとうございます。本当に駆け足で説明をしていただきましたけれども、施策・事業の評価について何かご質問等はございますでしょうか。

○加集委員 はい。

○森下議長 どうぞ。

○加集委員 すみません。4-3-3、発達障がいサポーターがありますが、意見とか、いろんな悩みであったり、そういうのを拾い上げるというか、聞いたりする場というのは設けられているのでしょうか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 そうですね、発達障がいサポート事業につきましては、学校側でボランティアを確保していただいて、実際に学校の中で先生が横についたような形で、オンザジョブで指導したりとかしながら配置させていただいている事業で、そういったことでは学校でいろんな相談に乗っていただいたりしていただいているところです。

ただ、区のほうでも発達障がいについての専門的知識を得られる研修の場があるので、区内で開かれるのでどうですかということで情報提供をさせていただいて、自分で学習したいということであれば参加できるような情報提供をさせていただいております。

○加集委員 市のお友達がされているので、なかなか肉体的にも精神的にもとても大変なお仕事なので、やはり、何て言うか、その学校の中では言えないような悩みであったり、何かそういうのが、何か全体的には無理かもしれないけど、そういう人同士での悩みの解決のし合いみたいな、何かそういうのがあると、こうたまっていかなくていいのかなみたいな感じです。で、もっと違う視点からの意見が聞けると、ああそういうときにはこういう対処したらいいのかなみたいなことが、何かそういうことってすごく大事なような気がします。

見ていると、本当に課外授業にも行ったり、とても大変でしんどいことが多いようなので、そういうところを配慮していただくといいのかなっていうふうに考えたりもします。

○花立協働まちづくり支援課長代理 はい。

○加集委員 学校でできないような何かサポートをしていただけたらなというふうに思います。

○花立協働まちづくり支援課長代理 はい。

○森下議長 割り込んですみません。石橋校長先生、サポーターの方からのそういうようなご意見というのは、要望とかいうのは耳にされることはあるのでしょうか。

○石橋磯路小学校長 そうですね。今もお話があったように、発達障がいの方の方ですから、なかよし学級に入られて、なかよし学級の先生といつも朝、来られたときに打合せをして、それからお仕事をして、で、終わりの時間になったら職員室に来て帰られるということです。

特に、何か、今のところ困ったとかこういうことで悩んでいるということは直接はお聞きはしていないのですが、その担当の先生がおられて、いつもきめ細かく話をされているので、その辺はある程度学校として話はできているのではないかと思いますけど、今、ご意見をお聞きしまして、その中でもなかなか言われたい悩みがやっぱりある場合もあると思いますので、そういう区内でとか、そういう中でそういうサポーターの人同士とか、お話を聞いていただけるような場があったらよりいいのではないかと思います。今お聞きして感じました。

学校としてはできるだけコミュニケーションとりながら進めようということは、本校だけではなくどの学校もそうしておられるとは思いますが。

○森下議長 矢田委員、すみません。

○矢田委員 4-3-9、青少年健全育成の推進のところ、今、田中は夜間巡視5日と、それと25日は青少年指導委員会と一緒に回っているのですが、今、警察の方と一緒に回っています。というのは、そういう取り組みを、やっぱり我々地域の者が警察にお願いしたら回ってくださると思うので、これ、ぜひ、警察のほうに、各地域がお願いするのか、区役所がお願いするのかはともかくとして、やっぱり我々も心強いしね。

それともう1つは、こんな夜間巡視マンネリ化していて、回っても効果があるのかなという時期があったんですけど、ある方から、歯医者先生でしたけれども、従業員のその看護師さんが、夜、帰るときにやっぱりその夜間巡視を見て、やっぱり心強いという、そういう報告を受けたので、これはやっぱりやらないといけないなとおもいました。子どもの健全育成だけではなく、そういう面からいつて続けられないといけないなというふうにと感じました。

だから、今は夕風交番のほうにお願いして、大体、3人かな、4人、田中の場合二手に分かれるので、田中地区と夕風地区と分かれるようにしています。その日によってはパト

カーまでついてくれるところもありますので、そういう関係で警察とは密にそういう連絡をしていたら、各校下ともいけると思うんです。

○中村協働まちづくり支援課長 去年、大阪府の警察官を派遣する非行防止ネットワーク活動に取り組むことを決めた地区でもあるのですが、1つの手段ですが制服警官を派遣をしてもらって一緒に街頭指導に回ってもらいます。それを皆さんに周知をしていますので、利用していただけたと思います。

○矢田委員 それと、今月でしたか、防犯協会の総会あったじゃないですか、区長が懇親会に来られて、その前に防犯協会の方が、皆さんにいい報告あるのですって言うので、区役所のほうが防犯協会と、いわゆる連携して物事を進めたいという区役所のほうから連絡ありましたと、皆さんの前でそういう報告されていました。ぜひそんな形で横の連携をとってください。

○田端区長 港区の場合、この区政会議を中心に、防災、防犯、福祉の基本計画をつくりました。基本計画だけではあまり実効性がないので、各小学校単位で防災、防犯、福祉のそれぞれの取り組み計画をつくっていただいて、福祉についてはおとし、そして、防災と防犯は昨年度、各地域でつくっていただきました。特に防災について非常に熱心で、防災マップと防災マニュアルをつくっていただいて、今、各地域で住民に説明いただいて、避難所開設訓練で検証して修正するべきところは修正していこうということになっています。

で、その中で、ちょっと我々も正直、ある意味意外だったのが防犯です。地域で熱心に子どもの見守りとかしていただいている中で、各地域の犯罪発生状況とかとちゃんと一致したような地域活動になっているかどうかというところを確認させていただきたいというのが主な目的だったのです。

ところが防犯につきましては、警察も地域のほうに防犯支部長っていう位置づけの人をつくってほしいとか、警察は警察で地域にお願いしていて、今、地域は地活協の安全安心部会とか、防災・防犯を担当していただける部会があると思うのですが、どうも警察との関係のある方と一致していないようだし、区役所としても地域のどなたにお願いしに行ったらいいのかということになってしまって、かなり時間がかかってしまいました。できることならば、区役所が調整させてもらって、警察の窓口も区役所の窓口もできたら地域で合わせていただけたほうが負担感も少ないかなと思ひまして、防犯協会ともそういうお話をし、調整させていただいています。より一層、防犯協会さんとか交通安全協会さ

んとは連携してやっていきたいと思います。

警察も我々も、地域というベクトルは一緒なので、あんまりお互い二重の連絡網みたいなものをつくっても意味がないので、本当に連携してやっていきたいなと思います。

○矢田委員 ですから、年に何回かのその防犯支部長会議なんかでも役所の方が出席されて、何か役所からの報告というか、お願いでもいいだろうし、そうしたら、各支部長もやはりそういう意識を持つと思うんです。そして、やっぱり各支部が、支部長がその会議で出た議案をやっぱり帰って報告するというようなところもちょっと今、マンネリになってきて、ちょっとピリっとしたところが欲しいな思っていますので、そこらを見ておいてください。

○田端区長 とは言いながら、地域によっては、防犯、警察の窓口と地域のそういう中で調整されて、別のほうがいいっていうところも当然あると思います。それはそれで地域の思いでやっていただいたらいいかなと思いますけど、ただ、まさに今おっしゃったように、いろんなところで形骸化しているところもあるかもしれないので、今日的にきっちり警察防犯協会と区役所が連携して、地域のほうとお話をさしていただきたいというふうに思っています。

○森下議長 少年非行防止活動ネットワークということがちらっと出ましたけども、そこをもう少し詳しくご説明をいただけますでしょうか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 はい。これは大阪府でつくられている組織でございまして、非行防止活動の充実を図るとともに、少年が犯罪に巻き込まれることを防ぐことを目的に、少年非行防止活動を行う地域ネットワークの構築というのを市町村に働きかけています。港区ではもう既にそういうネットワークがあるので、去年は青少年育成推進会議が参加したんですが、参加したのは今からつくるという意味合いでなく、あるもので登録させていただいて、登録すると、講師の派遣でありますとか、先ほど課長が申し上げた、巡視のときに警察と一緒に巡視してくれるとか、そういったサービスを受けられるということでありましたので、そういったことで港区も参加しております。

○森下議長 所属している団体というのは、その青少年以外にありますか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 そうですね、大体、大阪市では青少年育成推進会議が参加してまして、あとは、例えば池田市は教育センターだったり、吹田市は青少年育成吹田市市民大会実行委員会とか、泉大津市は少年声かけセンターとか、やはり青少年にかかわるネットワークが参加しています。

○森下議長 青少年指導員のほうでも巡視を行っていますので、警察にお願いするということもあると思うんですけど、青少年のほうでも。

○中村協働まちづくり支援課長 青少年育成推進会議の一員です。

○森下議長 あれはよかったですか。

○中村協働まちづくり支援課長 もちろん可能です。

それから、区によっては、青少年育成推進会議というのがないところもたくさんあるんですけども、そこはPTAであるとか、青少年指導員、福祉委員であるとか、そういう各種団体の寄り集まりというか、同じような意思を持っている方がおられたら、それはそれでまたネットワークを構築することができると思います。

○森下議長 多分、ほかの地域はネットワークをつくるどころからですけど、皆さん、もう既にあるということですね。

ほかに何かご質問はございませんでしょうか。

○加集委員 中1ギャップ問題のことですけれど、活用実績の点ですが、一応、対象児童ということで、これの結果というか、どうだったかというのはまだでしょうか。子どもたちはもう中学校に上がったということですよ。

○花立協働まちづくり支援課長代理 当初は6年生だけにつけるということだったんですが、そうすると活用が進まなかったんで、学年関係なしにつけさせていただいたというのが昨年の実績です。その中で、例えば三先小学校では、1日も学校に行けなかった子どもが登校支援ということで迎えに行くんですね。迎えに来てくれたおかげで登校できるようになりましたという声は、そういった声は個別には聞いておるのですが、数字で、何人がどうというのはなかなかちょっと難しいです。

○加集委員 数字はいいんですけど、実際どのような成果が上がっているのかというのと、あとその小学校の間は来られた子達が、今度、中学校に上がったときにどうなのかというほうが中1ギャップだったら大事なのかなというところで。

○花立協働まちづくり支援課長代理 そうですね。はい。もう小学校は不登校については全国平均と余り変わらないか、もしくは少ないくらいですが、中学校に関しては1.5倍、全国よりも多いということなので、小学校6年から中学校1年にかけては4倍くらいにふえると言われています。そういうことで中学校になっていくと、今度はまた非常に深刻な問題なので、小学校段階からサポーターをつけることによって、ちょっとでも、丸々もう不登校でなくなるというのは難しいかもしれないですが、1日でも多く学校に行けて

不登校状態にならないようにするという目的でやっています、それは継続して同じ人が小学校から引き続き中学校でもサポートするということができるようになって初めて成果が上がるので、去年始めたばかりの事業ですので、これからそういった成果が上がってくると思っております。

○加集委員 これもいろいろ試行錯誤を重ねながらですね。

○花立協働まちづくり支援課長代理 そうですね。予算が潤沢にあれば全学年つけますとかそういうことになるのですが、ちょっと限られた予算で効率的にということで、小学校の高学年につけさせていただいて、中学校の一番、不登校になる時期を何とか、ちょっとでも学校に行けるようにしたいということです。

○加集委員 これもなかなかいろんな問題絡んでくるので、サポーターさんとしてもちょっとどこまでその家庭の問題に踏み込んでいいのかわからないということも出てくると思うので、何かその辺ちょっと難しいかなというふうに感じています。

○平岡委員 資料のことで、エルカフェはというのは何でしょうか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 後ほどご説明しようと思っていたのですが、これはですね、子どもの居場所事業というもので、今年度から始めた事業です。資料Fのチラシをご覧ください。

エルカフェという名前の子どもの居場所をこの4月からつくっています。

第1の場所が家庭で、第2の場所が子どもにとっては学校とすると、第3の学校でも家庭でもないちょっとほっとできる場所があれば、子どもたちがちょっとでも生きやすくなるということで、そういった第3の場所であるサードプレイスを港区でつくろうということで、去年、研修会を5回開いて、そこに集まってくれた人たちと一緒に毎月1回集まって、6カ月ぐらい集まって、こういった名前を決めたり、コンセプトを決めたり、どういう内容にしようということを決めて、ようやく開催にこぎつけたものです。

コンセプトは笑顔をつなぐ居場所ということで、このエルカフェの「エル」は笑えるとか、言えるとか、支える。さまざまな「エル」がある場所ということです。

このチラシの左端にある絵も、このエルの字でコーヒーカップの絵もボランティアの方が書いてくれたんです。そうやって本当に手づくりの場です。

港区役所と社会福祉協議会とそういったボランティア三者が一緒になって開催しています。

今、4月から、4、5、6と3回開催しまして、4月には広報みなどを見て来られた、

子どもが4人来られました。5月はちょっとゼロだったんです。6月は問い合わせがふえて、私の子ども不登校ですが、とか、そういった本当に居場所を必要としている保護者とか学校の先生からも問い合わせがあったりして、6月はそういった居場所を必要とする子どもが2人来てくれました。

今後、そういった子どもがここに来て、ちょっとでもほっとできるように、また継続して来ていただけるように、ボランティアと一緒に運営していきたいと思っています。

○森下議長 この利用されるお子さんというのは保護者の方と来られる方が多いのかなと思うんですけど、保護者の方は同じこの部屋にいるのでしょうか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 いえ、同じ部屋でもいいですし、外でボランティアの方と話して保護者の方もちょっとほっとしてもらったらと思っています。

○森下議長 コーヒーが出るか、というような質問を受けたことがありますので。

○花立協働まちづくり支援課長代理 そうですね、アレルギーの問題とかがあって、飲み物であってもちょっと気を使うので、当面は持ち込みで、自分で準備してもらうということで水筒持ち込みでお願いしています。もうちょっと運営が、皆さんがなれてきたら、ハードルがちょっと高いのですが、そういったこともやっていければなと思っています。

○矢田委員 大体何人ぐらいの方がボランティアで参加していますか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 ボランティアは登録されているのが20名くらいで、今は研修を兼ねて来られる人は来てくださいということでやっているのですが、将来的には5人とか人数を決めて、ローテーションでやっていきます。ボランティアの方は主任児童委員さんであったりとか、青指さんであったりとか、地域の地活協の方であったりとか、地域に足場のある、この子どもたちを地域でもそのネットワークで支えていただけるような方が来ていただいています。あと大学生のボランティアも1人来てくださっています。

○森下議長 いじめを受けているとか、そういう子どもさんに特化してしまうと、ここに来ている子はみんないじめられている子なんやでというような偏見を受ける場合がありますので、幅広く遊びに来てねくらいの感じがいいのかなと思うんですけど。

○花立協働まちづくり支援課長代理 ええ、本当にそういう、何というんですかね、レッテルを貼られるような場にならないようにということで、このチラシもかなりそこら辺を気を使って、そうはいいながらも、持って行って説明する方にはこれで説明できるようにと、ただ、ぱっとこれを見た人はそういうものはわからないので、チラシだけで来られ

るようにというのはちょっと難しいんですが、そういう工夫をして、こういう表現に落ちています。

○平岡委員 多分、前も言っていたと思うけど、登録は前もってであって当日ではないのですか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 当日で結構です。はい。

実際お一人の方は保護者の方が区役所に来られて詳しくお話を聞いて、それから来ようと思われたようです。

○森下議長 ほか、何かございませんでしょうか。

○客野委員 1点だけ、じゃあ、気になるのですが、こどもサイエンスカフェ事業のほうで、撤退基準が参加した子どもの満足度50%というような形にされているのですが、資料Hの裏面に4回の取り組みの募集のチラシが載っているのがあるのですが、これ、例えば定員に対して何人ぐらい来られているかというのは、数字とかはあるのでしょうか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 そうですね。ちょっと覚えてないのですが、全体6回で69名だったと記憶しております。

○客野委員 ちょっと気になった撤退基準ですが、その満足度を言われていますので、大体、こういうのに来る子どもに聞いたら大概満足してくれているのじゃないかと思うのですが、例えば定員に対して何%切ったらとかというような基準とかにしていったほうがいいと思います。いいことをやっているのので、できるだけたくさんの人に来ていただいたほうがいいかなと思うんで。

○花立協働まちづくり支援課長代理 今、確認しましたら6回で69名でした。はい。69名です。

定員の目標というのは、定員を満たすようにとは思っているのですが、こっちはどちらかというとな部屋の定員のような原因でして、実際は先生方も1人でやったりするので余りたくさん来られても、やはり10名から20名くらいの間が1人の先生だといいいのかなあというのは実際に参加して思うことではあります。

○森下議長 この資料は去年の資料ですか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 そうです。今年は今、企画中でして。

○森下議長 そうですか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 この去年やった自然観察体験ですね。八幡屋公園

での虫取りとか、星空の観察とか、また電気の実験とか、いろんな内容で企画中です。夏休み中に開催する予定です。

○森下議長 でも、もうすぐですもんね、夏休みは。

○花立協働まちづくり支援課長代理 そうですね。はい。

○森下議長 何かご質問等ございませんでしょうか。

ないようでしたら、(2)その他のほうに入らせていただきます。

○花立協働まちづくり支援課長代理 残りの資料について、資料J、K、Lについてご説明させていただきます。まず資料J、こども110番の家です。こちら、後ろから3枚目になります。裏面にこども110番の家の地図があります。協力家庭を四角、協力事業所を丸で印した地図です。

こちらの地図を小学校を通して全家庭に、各学校ごとの校区の地図を配布させていただきました。また港区のホームページにも掲載しております。

これは約520ある登録数の半分強の人の分しかまだ落とせていないんです。というのは了解が得られてなかったりとか、了承するためにアンケートをしたんですが、そのご返事がまだなかったりとか、そういうことがありますので、今後、アンケートの回答をもう一度、町会等を通してお願いしまして、数を増やして確定させていき、新たな新規の登録についてもふやして、もっと網の目の細かいセーフティーネットをつくっていければと思っています。順次、これについては数をふやして更新していきたいと思います。

地図もちょっと見にくいという意見もありましたので、街区を入れたりとか、また学校とか大きな何か公共物、目印については入れていくような改善もする予定でございます。

それから、次、続いて資料Kです。こちらは教科書展示会についての資料です。

平成28年度から中学校で使用する教科書の採択に向けた教科書展示会を区民センターの1階のロビーで開催しています。

ほかの区では区役所で開催することが多いんですが、港区では土、日でありますとか、夜間についても区民の方に見ただけのように区民センターに設置しております。

教科書採択を行う教育委員会などで意見を参考として活用するためのアンケートをここで書いていただくことができますので、ぜひアンケートを書いていただいて、その意見を反映していただけたらと思いますのでよろしく願いいたします。7月9日まで開催しております。

続きまして資料Lです。

こちらは社会を明るくする運動の講演会のチラシです。

7月29日に実施するのですが、今回はラグビーの大八木淳史さんをお招きします。

港区の中学校には5中中、4中にラグビー部がありましてラグビーが盛んです。ぜひ多くの方に参加いただければと思います。

また、社会を明るくする運動では、運動標語の書道とポスターを小学生に募集して、展示を区民センターであるとか、近隣センターであるとか、区役所のギャラリーでしているのですが、7月を強調月間にしていきます。実は今年度から、その書道、ポスターの応募者の表彰を行うこととしました。優秀作品については、この29日の講演会の前段で表彰する予定でございます。以上でございます。

○森下議長 ありがとうございます。資料J、K、Lのご説明をいただきましたけれども、何かご意見ありますでしょうか。

こども110番の家事業のその協力に関してなんですけども、これは通年ずっと受け付けておられるのですか。

○花立協働まちづくり支援課長代理 はい。

○森下議長 石橋校長先生、お忙しい中ご出席をいただきましたので、何か学校の現状であるとか。

○石橋磯路小学校長 この事業のほうですけども、今回いろんな取り組みをしていただいて、特に学校に対していろんな方がかかわってくださっていることが非常にありがたいなあというふうに思いますので、ぜひ教育ということに関心を持っていただいて、子どもたちの成長発達のために、もちろん学校も頑張っていきますけど、いろいろとご理解をいただいて、ご尽力をいただいたら大変ありがたいなと思っております。

きょう、月曜日ということで朝会があったのですけども、すごく子どもたちがきちっと並んでいて、先週もそうやったんですけど、頑張っているなということ、すごく子どもたちを褒めました。どこの学校でもそうだと思うのですけども、港区はPTAも、それから子ども会も、いろいろな団体のほうも、本当に熱心に活動してくださっているので、そのおかげで子どもたちが落ちついた状態にあるのではないかなと思いますので、ぜひこういういい状態を続けていけたらいいなあと思っております。

○森下議長 何もないようでしたら、瓜生副議長、絵本の読み聞かせのようなお声をお願いします。

○瓜生副議長 皆さんお疲れさまでした。きょうは今、初めてしゃべるのですかね。い

い声で。はい。ちょっと寂しいような席の空き方ですけど、今日のお話を聞いていて、26年度の施策とか事業の評価の中でいろいろ話を聞いていたら、やっぱり港区って数年にわたっているんな地域の活動がやっていて、うまいこと基盤というか地盤ができ上がっている上に、この事業が今、乗っていて、だからスタートがすごくいい状態からスタートしていて、で、この評価につながっているのだらうと思います。

このまま来年度、再来年度に向けて、もっともっといいような評価が上がって行って、目標が達成できるようにいけるのが理想で、多分、行くのではないかなとは思っています。

で、あともう1点、分権のさっきの話ですけど、それも含めて、これから先いろんな形でこのこども青少年部会の形も変わってくると思うのですが、私たちもかかわれるのが、先ほど話しましたように9月いっぱいまでで、次がどんなメンバーでなっていくかわからないですけど、あと、まだこのメンバーであと何回お会いできるかもわからないですけど、今の話がそのまま続いていけるような形で、次のほうに引き続いていきたいと思いますので、皆さん今後ともご協力よろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。

○中村協働まちづくり支援課長 どうもありがとうございました。

—了—